

# スクール カウンセラー

第10号

## だよ!



「光陰 矢の如し」という言葉があります。「時間があっという間に過ぎ去ってしまう」という意味ですが、早いもので、今年度のスクールカウンセラーだよりは最後となります。今回は、私の書いたイラストをいっぱい載せてみました。みなさんは、この中で、「やってみたい仕事」「気になっている専門職」はありますか。





この度、能登半島に「災害時の心のケア」をするため、1週間ほど現地入りしました。詳しく内容を知りたいかたは 朝日小学生新聞(2月16日付け・現時点では無料閲覧可能・有料記事になるかは未定)の記事をご参照ください。記事の一文の「文部科学省は、子どもたちの心のサポートができる人を増やすため、他の地域から石川県へ学校の先生やSC(スクールカウンセラーの略)を送り出しています」の部分の

「他の地域」として「北海道」の地域から行ったわけです。色々な都府県から専門職が来ていたので様々な方言が飛び交っていました。★参照記事:朝日小学生新聞記事アドレスはこちらになります。

<https://www.asahi.com/asagakuplus/article/asasho/15165055>

■…先ほどイラストに書いた「職種」や「人たちは」、現地に行って「かかせないなあ。大事だなあ」…！ と私が思った職種の一部です。

他にもありましたが書ききれませんでした。この職種(仕事)の中には、一見、災害支援に無関係のように思われる職業もあるかもしれません。

例えば、タクシーの運転手さん。金沢市内から、輪島地域や、もっと奥の地域に「保険屋さん」を必要とする方々がいたら、その方々のところへ保険屋さんを運ぶタクシーの運転手さんが必要となっていました。普段は金沢市内の普通の運転手さんだそうです。また、全国から来た支援者・支援職種の中には現地でレンタカーを借り、輪島や、能登の奥や珠洲市まで運転しなければならない団体も多く、現地でパンクした車は「開店している数少ない自動車修理工場」が頼りとなりました。一方、金沢市内の安全な地域には外国や他の県から観光客も訪れていました。兼六園も有名ですよ。安全な地域に、観光客の方々が訪れて、お土産を買うなどしてくれると、物産店の方が喜ぶだけではなく、石川県のほうも財政的に豊かになるので、回りまわって、被災された多くの皆さんへ、行政的な支援としてお金が回せることにもなります。

■現地で現在小学生の子が中学生になる頃、いまこれを読んでくれている北海道の中学校のみなさんは大学生や社会人として大人になっています。その時、もしかしたら、もっと具体的に能登半島の中学生のみなさんに何かできることがでてくるかもしれませんね！ ■いま目の前にある「学校生活」「部活」「勉強」「自分自身の心や体が健康であること」——それを一生懸命大事にしてゆけば、いつのまにか、あなたは、どこかの誰かのお役に立てているであろう…と、わたしは思いました。■まずは自分の「こころの健康」が大切です。

【記事 QR コード】



こころの元気がなくなってきたり、気持ちを聴いてほしくなったりしたら、スクールカウンセラー来校日をご利用ください。★今後の来校日:2/28日(水)・3/4(月)・3/6(水)・3/13(水)

★申し込み・問い合わせ先:教頭先生等